



平成15年
3月5日号

No.1122

●毎月5・15・25日発行

広報 かもがわ

●編集発行・鴨川市役所秘書課
広報広聴係
●電話・0470(93)7827
●FAX・0470(93)7850
●鴨川市横渚1450
●郵便番号・296-8601



効率的な行政の実現に向けて

役所のしごととの“通知票” 4月から『行政評価制度』を導入します

市民のニーズを的確にとらえ、効率的で質の高い行政サービスを提供していくことが、今、求められています。そこで市では、行政改革のひとつとして、四月から『行政評価制度』を導入します。この制度は、行政が事務事業などを行う場合、どのような成果を生み出すかという目標をあらかじめ設定し、その達成度を数値で評価。市民皆さんに公表しながら、事務事業の改善に生かしていくというものです。役所のしごとの“通知票”とも言える仕組みです。財政の健全性の確保や透明な行政運営を求める声にも対応していく有効な手段として、四月から一部の事務事業を対象に実施していきます。

平成15年度は事務事業の成果を検証・評価

『行政評価制度』の評価対象は、市で行う全ての政策や施策、事務事業です。市では今年四月から、一部の事務事業を対象に、この制度を試験的に導入していきます。そして、平成十六年度からは順次、評価対象を拡大しながら実施していく予定です。

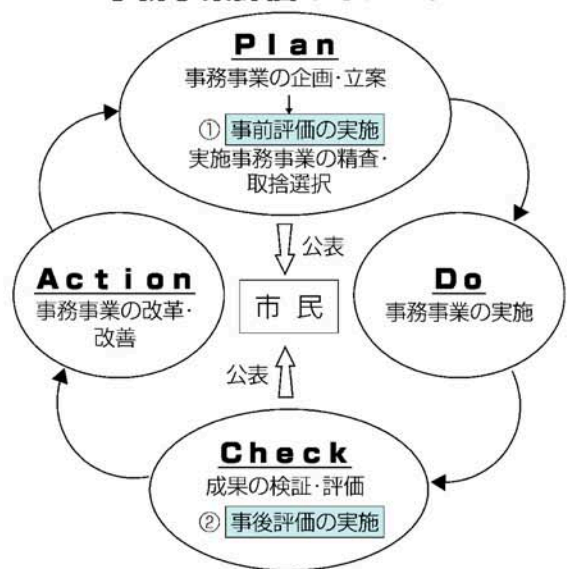
①事前評価Ⅱ事務事業の企画・立案段階で、市民の要望に沿ったものかどうかまた、その目的や必要性、財政的な効果などを検証し評価します。達成目標を設定し、予算に反映させます。実施後には、事後評価を行います。目標の達成状況など、その成果を点検。達成度合いを数値で表し、改善の余地がある場合には、その改善策を検討していくこととするものです。

事前評価と事後評価は、それぞれチェックシートなどを用い、まず、担当職員による自己評価を実施し、さらに、より客観性を高めるために市行政改革推進本部で二次評価を行います。市が、どんな成果を期待して事務事業を実施したのか、また、どんな成果があったのか、市民の皆さんへのアカウンタビリティー

（説明責任）を果たすことは対話による行政を進めるうえで大切なことです。このため、評価結果については市の広報紙やホームページなどを通じて皆さんに公表していきます。役所のしごとの通知票、

とじて保存しましょう

事務事業評価のイメージ



ともいえる行政評価制度を市では、限られた財源や人員の重点配分、行政運営の公平性・透明性の確保、職員のコスト意識や成果意識の醸成など、市民ニーズに対応した効率的な行政の実現に役立てていきます。※問い合わせは市総務課（☎04707829）へ

ご利用ください 公民館などの情報端末

誰もが気軽にインターネットを利用できる環境づくりをめざし、市では、昨年一月から市役所や市立図書館、公民館などに、インターネットが利用できるパソコンを置いていきます。このほど、まとまった開設一年間の利用状況によると、延べ一千人を超える方が利用。皆さんは、インターネットを通じて情報収集や調べものなどに利用されているようです。

なお、市立図書館に比べて、各施設での利用が少ないようですので、どうぞ、お気軽にご利用ください。▼設置場所 市役所一階の市政情報コーナー、市立図書館、郷土資料館、ふれあいセンター、中央公民館、東条公民館、吉尾公民館、太海公民館 ▼開放時間 開館日の午前九時から午後四時まで（一人あたり一時間以内） ▼費用 無料（印刷する場合は用紙一枚につき十円） ▼利用手続 各施設の受付に利用申請書があります

ご来館ください —文化財センターの企画展— 『安房の最新考古資料』

期間
3月15日(土)
～5月11日(日)

場所
市文化財センター
郷土資料館隣
(午前9時から午後4時まで)



内容 白浜町や富山町など安房地域の古墳・集落跡から近年になって出土した、土器や石器、装飾に用いた玉類のほか、大名屋敷（陣屋）の見取図、市内では東条地区や嶺岡の遺跡からの出土品など約50点を展示

入館料 市民は無料（市外の方は一般200円、小・中・高校生150円）

※月曜日と祝日の翌日は休館。問い合わせは市郷土資料館（☎04703800）へ



⑨地域振興アドバイザーの目 「やる気」行動力 「二十一世紀」という言葉は、希望に満ちた未来社会の代名詞として使われてきた。その二十一世紀が、早くも三年目。日本経済は依然苦戦。特に国や地方自治体は予算編成に苦勞している。▼こういう時期に新規事業を考えて予算要求しても、みな切られる。その結果、職員は意欲を失い無気力になる。何を話しても「予算が無いからね」となり、話は終わるのである。▼こういうことは民間企業にもある。これでは開店休業である。こんなことは許される筈が無い。かつて私はそんな時「こういう時こそ知恵を。新しいシナリオを」と言ってきた。今風に言えば「ハードからソフトへ」である。多額の金を使わなくてもやれることはいくらかもある筈である。▼「地域おこし」について言えば、例えば地域で自慢できるものを列挙してみよう。気候風土、自然景観、食べ物等、地場産品、芸術・文化資源、アクセス等立地環境、観光施設等々さまざまに分野がある。意外と知られていないものが沢山ある筈である。▼それが整理できたら次はアピールのためのPR手段を検討し、地域の魅力資源として活用の手立てをつけるのである。その際に大事なことは紛れもなく「やる気」であり、「行動力」だ。何事も行動を起こさなければ結果（成果）は得られない。特に若い人達の行動力に期待したい。若い人の特権は行動力だ。（記・下村恵保） ※ご意見は市企画振興課（☎047070022）へ

不用品交換コーナー

▷譲ります 歩行型田植え機（応談）
▷譲ってください ひな壇飾り、はかり付き米選機（いずれも応談）
◎市商工観光課（☎04707837）